

【目的】海洋曝露環境下における労働作業には多種多様あるが、今回はその中でも漁労作業を行っている労働者を中心に、その着用衣服の実態調査を試みた。海洋曝露環境下での作業において、漁労作業者は作業中の衣服として、実際に何をどのように着用しているのか、その実態調査の報告は皆無である。そこで本調査を試みることにより、漁労従事者の衣服に関する問題点、そして改善すべき点などを把握することにより、漁労作業者の快適な衣服設計を検討するための基礎とすることを目的とした。

【方法】

調査対象漁港：早川、福田、御前崎、下田、銚子、気仙沼。

調査実施季節：夏、秋、冬。

調査方法：漁業協同組合、漁労長、などの聞き込み、水揚げ時服装の観察、漁労作業者のアンケート調査などによる。

【結果】・環境曝露環境下における作業者の漁労作業時における衣服は、比較的温熱的には適切を着装をしているものと考えらる。

- ・早川、福田での日帰り従事者は軽装、その他は温熱的に重装備の傾向である。
- ・合羽は漁労作業衣として重要な役割を果たす。夏は濡れ、汚れ防止中心に用いられ、冬は汚れ防止、雨・波飛沫などの濡れ防止、防風、そして防寒を兼ね使用されている。
- ・防寒として厳寒時にはセーターなど用いられるが、作業衣は動き易さ、軽さ、丈夫さを主体として考慮され、厚着を避ける意味でも常時合羽またはジャケットが用いられる。